

認定NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第102号 (R2.1.19)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7（メール info@ormz.or.jp） 文責：日高良雄



はじめに 2020年、東京オリンピック、パラリンピックの年が始まりました。昨年のラグビーワールドカップに続いて日本中が大いに盛り上がるのではと思います。天候の心配等ありますが、少しでも盛り上がりに参加できると嬉しいなど感じております。

さて、2012年に活動を始めた当法人も、今年は足かけ9年目となり、10年の節目が身近なものとなってきました。

昨年、ニュース第100号を作成する時にこれまでの活動を振り返りましたが、延6地区で実施した巡回診療で診察した方が3万人以上（うち5歳未満児が約1万人）、住民啓発からコミュニティヘルスワーカーの養成、安全な飲料水を確保するための延20基の井戸掘削、さらには各戸毎のマラリア蚊殺虫剤噴霧へと、年々活動の幅を広げてくることができました。

山元香代子先生の頑張りはもちろんですが、現地スタッフや巡回診療の間にマラリア等に感染した疑い者への検査と薬処方を行うコミュニティヘルスワーカー等の頑張りにより、各地区においてマラリア等で亡くなる方は確実に減少しています。

もちろんこれらの活動は皆様のご支援により可能となったものであり、改めて心からご支援に感謝申し上げますとともに、活動の成果を一緒に分かち合いたいと考えております。

さて、2020年最初のORMZニュース第102号では、昨年の活動経過をご報告しますと共に、現地での巡回診療の様子や在ザンビア日本大使館情報（ホームページから引用）などをお伝えします。

2020年も引き続き、さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

会の経過報告等

・現在、2019事業年(1月～12月)の活動のまとめ、決算等を行っています。詳しくは次回のニュースでお知らせします。

・2019年一年間の主な活動状況は以下のとおりです。

・2月3日理事会、2月24日通常総会を開催し、2018事業年の活動報告、決算及び2019事業年の活動計画案、予算案等について協議、原案通り承認されました。

・2月17日、山元先生の医療の原点である宮崎県椎葉村の生涯学習フェスティバルにおいて特別講演を行いました。椎葉村国民健康保険病院で勤務されていたときお世話になった方が3世代で出席されるなど会場は300人を超える人で満杯。講演終了後、椎葉晃充村長から会の活動へ百万円の寄付金が贈呈され、百万円の寄付と言われた瞬間、山元先生は「えー」と大きな声を出され、びっくりされていました。

・2月19日、アフリカ開発協会（東京都千代田区）主催の「第6回アフリカで活躍する日本人医師・医学研究者の連絡会議」に参加。当法人の活動が協会事務局から紹介されました。



・4月1日、ルサカ市内のトヨタザンビアの店舗において、当法人へランドクルーザーの贈呈式が行われました。寄贈主は田河拓治日立建機ザンビア社長及びディノ・ビアンキ・トヨタ・ザンビア社長で、式典には側嶋秀展在ザンビア日本大使（当時）、チャムカ6世伝統的指導者、マーティン・チョワ・チサンバ郡行政長官など約30人が出席され、盛大に式典が行われました。



・5月11日午後2時30分から、宮崎市清武文化会館小ホールにて、ザンビアの辺地医療を支援するチャリティゴスペルコンサート実行委員会主催のゴスペルコンサートが開催され、100名以上の方が参加されました。



・6月10日、在ザンビア日本国大使館のホームページに、山元香代子先生が側嶋秀展在ザンビア日本大使（当時）に活動報告を行う様子が掲載されました。

・宮崎市内の中・高校生に講演しました。8月22日宮崎西校附属中学校*、9月19日宮崎大宮高校、そして9月26日宮崎西高校*で講演会開催（*宮崎県ユニセフ協会様のご協力をいただきました）

・8月28日、宮崎銀行佐土原支店にて株式会社シミズ代表取締役清水貴浩様から、CSR型私募債による寄附の贈呈を受けました。

・9月6日、山元先生や私の母校の宮崎大宮高校国際ボランティア部が、文化祭においてORMZの活動に関する展示、さらには寄附を行ってくれました。



・昨年、UMKテレビ宮崎が制作放送したドキュメンタリー番組が海外の映像祭で賞を受賞。

・10月22日、修理に出していたランドクルーザーの修理費が当初予定を越えていることや、現地からコミュニティヘルスワーカーの養成の希望が強く出されたことなどをを受け、2019事業年度活動計算書（事業予算）の修正を行うための臨時理事会を、理事会承認を受けて10月27日に臨時総会（定款第28条第3項の規定によるメールでの総会開催）を開催し、全員からの賛同を得て、事業予算の修正を行いました。

・11月13日、7月末に書類を提出し審査を受けていました認定NPO法人の更新が認められ、2025年1月まで認定期間が更新されました。

・12月12日、臨時理事会を開催し、認定NPO法人の認定更新の際に指導を受けた経理規定等（経理規定・出納管理規定・固定資産管理規定）を策定しました。策定のご指導をいただいた会計顧問の公認会計士當房様に感謝申し上げます。

現地活動報告（山元香代子先生）

・昨年12月の巡回診療は合計5回実施しました。受診者の概況です。

12月 4日	サンダラ地区	受診者数	60名	うちマラリア陽性	4名
12月11日	ルアノ地区	受診者数	67名	うちマラリア陽性	1名
12月18日	リテタ地区	受診者数	92名	うちマラリア陽性	5名
12月24日	ニャンカンガ地区	受診者数	36名	うちマラリア陽性	1名
12月27日	ルアノ地区	受診者数	73名	うちマラリア陽性	6名

在ザンビア日本大使館情報（ホームページより転載）

・2019年10月11日、在ザンビア日本大使の交代があり、水内龍太氏が新任の日本大使としてザンビアに着任されました。

・そして12月12日、水内大使は、エドガー・ルング・ザンビア共和国大統領に信任状を捧呈されたとのことです。

・大使館情報によると、信任状捧呈式において、水内大使は、日本とザンビアの友好親善関係を一層発展させるために最善を尽くしたいと述べられ、ルング大統領は、教育、保健、水衛生、エネルギー、難民支援、農業、インフラ及び民間セクター開発、カイゼン・プロジェクトといった分野における日本の継続的な支援に対する謝辞を述べ、2019年8月に横浜で開催されたTICAD7の成功を賞賛されたとのことでした。



・水内大使からのクイズです（ホームページから引用）。

「アフリカと日本との関係は、ヨーロッパと日本の関係と同じくらい古い——○か×か？」

正解は○です。

・記録されている最初のアフリカ人の日本への来訪は、天正9（1581）年ということになっています。フランソワ・ソリエ（François Solier）という人が書いた *Histoire ecclesiastique des Isles et Royaumes du Japon* という本の中に、イエズス会のアレッサンドロ・ヴァリニャーノが来日した時、インドから黒人の従者を連れてきて織田信長に会わせたこと、この者はモザンビークの出身で（native of Mozambique）、喜望峯方面で「カフレ」（Cafres）と呼ばれる人々の出であることが書かれています。このアフリカ人を織田信長がヴァリニャーノから譲り受け、「弥助」という名を与え、家臣として取り立てたのです。身長が180センチ以上もあったそうで、身体能力も優れていたでしょうから、戦国時代の日本でずいぶん活躍したのではないかと思います。との記載がありました。

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

・2020事業年度（事業年度は1月から12月）が始まりました。早速ですが、賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をよろしくお願い申し上げます。

・当法人は認定NPO法人（この1月から5年間の認定更新を受けています）であり、ご寄附（賛助会費含む）をいただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。

・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp または hidaka1956@gmail.com）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 口座記号：01720-9 口座番号：0126351

加入者名 ： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

***2020年が皆様に取りまして良い年となりますようお祈り申し上げます。**

また、今年も多くの皆様のご支援を心からお願い申し上げます。